

2024年度

環境経営レポート



TAIYO YUSHI

太陽油脂株式会社

太陽の恵み
人にやさしく地球にやさしく

発行日：2025年06月20日

目次

1 組織の概要	P. 3
2 対象範囲	P. 3
3 環境経営方針	P. 4
4 環境経営管理実施体制	P. 5
5 環境経営目標	P. 6
6 環境経営計画	P. 6 - 7
7 環境経営目標の実績	P. 7 - 8
8 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組	P. 9 - 10
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P. 10 - 11
10 代表者による全体評価と見直しの結果	P. 11
11 その他環境経営報告	P. 12 - 18



事業所名及び代表者名

太陽油脂株式会社
代表取締役社長 中山 悟

所在地

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：製造技術グループ グループリーダー 金井 一徳
TEL：045-441-4962 FAX：045-441-9671

事業の概要

①事業内容

食用加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、
その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売

石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、
化粧品の製造販売

飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売

②事業規模

生産量：73,972 t／年（食品 72,425 t／年）
従業員数：309 名（2025/4 現在、
従業員 254 + 構内協力会社人数 55）
延べ床面積：14,638.46㎡

1) 認証・登録範囲（2009年認証取得）

食用加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売
石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売
飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売（2021年度登録）

2) レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2024年04月01日～2025年03月31日
発行日：2025年06月20日



一滴の油から、やさしさを広げる。「やさしさ」誰もが持つこの気持ちを、私たちははぐくみ、届けてきました。何気ない日常がほほえみでつつまれるように、私たちは人を想い、自然を想う。生活が大きく変わり、不安を抱える今だから、もう一度あなたと共にやさしさを考えたい。100年後も、その先も、やさしさで繋がる未来を目指して、環境経営方針を掲げます。

A-KE002-07-0

改訂日 2024 年 02 月 16 日

環 境 経 営 方 針

太陽油脂は、「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」と掲げたスローガンのもと、誠実をモットーに、確かな技術とモノづくり精神に裏付けられた、人と、地球にやさしい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献するため以下の環境経営方針を定めます。

1. 環境、社会との共生に視点を置いた企業活動

- 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
- 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。

2. 人と環境に優しい製品の提供

- 2-1、太陽油脂は、「人と、地球にやさしい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境にやさしい生活」をも提供していきます。
- 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を継続改善していきます。
- 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境経営方針の全従業員への周知徹底を行い全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

2024 年 02 月 16 日

太陽油脂株式会社

代表取締役社長 中山 悟

太陽油脂のSDGs重点テーマ

私たちは、自社の取り組みをSDGsの17のゴールと169のターゲットと照らし合わせ、事業との関連性で重要度を評価しました。

そして自社の重点テーマにつながる次のSDGs（9つのゴール）に取り組んでいきます。



※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて
<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>



実施体制役割説明

代表者（社長）：環境経営システムの構築・運用に必要な経営諸資源を準備する
環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境経営方針を定める
環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う

環境管理責任者：環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する
環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する
環境経営目標及び環境経営計画の策定を行い、社長の承認を得る
部門（部署）の「環境経営計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る

EA21事務局：環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う
全社の環境経営活動の運用状況を把握し円滑かつ効率的な活動となるよう総合調整を行う

CSR委員会：企業情報及びリクルート・CSR・SDGs・プロモーション等の活動において、一貫性を持った外部発信力を高め、
企業ブランド・商品ブランド認知及び社会価値の向上を図るための検討・決定機関として活動する。

各部門長（各部署長）：部門（部署）の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる
部門（部署）の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う
自部門（部署）の「環境経営計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する

環境活動推進委員：部門（部署）長を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務局として事務手続き等の実務を遂行する

全従業者：部門（部署）の推進委員を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務手続き等の実務を遂行する
部門（部署）の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する活動を行う

5

環境経営目標（2022年度設置）

2020年度～2022年度までの実績を踏まえ、2023年度～2025年度の環境目標は以下の通りです。

（尚、2022年度の二酸化炭素排出係数（東電）は0.456（kg-CO₂/kwh）を使用）

（年度：4月～3月 以下同じ）

製品生産量当たり	基準年度実績 2022年度	基準年度比 2023年度目標	基準年度比 2024年度目標	基準年度比 2025年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂ /t)	195.27	83.00%	79.00%	75.00%
産業廃棄物排出量 (t/t)	0.0301	97.00%	95.00%	93.00%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.02595	99.00%	96.00%	93.00%
食品リサイクル リサイクル率 (%)	97.55%	97% 以上	97% 以上	97% 以上
排水量 (m ³ /t)	3.70	99.00%	95.00%	91.00%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0410	97.00%	93.00%	89.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具 等の対象品の購入実施率)	98.47%	95% 以上	95% 以上	95% 以上
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	100%	97% 以上	97% 以上	97% 以上
地域とのコミュニケーション (石けん学習会など参加人数)	1,517 名 / 年	2,000 人 / 年	2,000 人 / 年	2,000 人 / 年

6

環境経営計画（2024年度）

環境経営計画	取組み内容
二酸化炭素 排出量削減 ＜排出係数 0.456kg-CO ₂ /kWh＞ 2022年度比 79%	①非化石証書（カーボンオフセット）を45%以上取得 ②空調設備の更新、照明のLED化、省エネ機器設置による効率向上 ③設備保全の強化、設備起因のロス削減で生産性向上 ④製造条件の過剰設定を見直しエネルギー原単位を減 ⑤不適合品の発生を削減し生産性を向上
都市ガス使用量 原単位削減 2022年度比：97.0%以下	①脱臭機の条件改善による省エネ運転を確立 ②製造条件見直しにより、過剰な蒸気使用量を削減する ③熱交換設備を導入するなどエネルギー再利用を増やす ④設備保全の強化、設備起因のロス削減で生産性向上 ⑤不適合発生を削減し、再製造等で発生するエネルギー使用を削減する
産業廃棄物 総廃棄量削減 2022年度比 95%以下	①資材・製品在庫の持ち方を見直し、不良在庫の廃棄量を削減する ②リサイクル対象物を再設定し資源化強化 ③監視カメラ映像にてごみの分別状況点検、指摘・改善の実施 ④産業廃棄物排出量未達成の要因は、排水処理設備からの汚泥排出量の増加である。 この要因となった排水温度を監視、改善策（冷却設備）を設置する
廃白土量原単位削減 2022年度基準に：98%以下	①製品の白土添加量基準を確認し製造頻度の高い品目を主に色調管理し白土量削減を行う ②廃白土油分を削減する。加圧用コンプレッサーを増設し、油分含有率を下げる ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する
食品廃棄物 発生抑制 2022年度比 96%以下	①油水分離回収設備の運用強化し廃油の資源化 ②資材・製品在庫で賞味期限などで発生する不良在庫の廃棄量を削減する ③製造条件を環境配慮設計のもと改定を進める ④パイロボイラーの安定稼働
食品リサイクル率 97%以上	①熱回収される再資源化油を削減する ②不適合品発生を抑制、また資源化油として利用する

環境経営計画		取り組み内容
総排水量削減 2022年度比 95%以下	水使用量 原単位削減 2022年度比：92.5%以下	①冷却水の循環利用 ②水利利用先の運用調査（ムダ利用の抑制）配管ルート再調査し、不要な使用箇所の閉止、 流量調整を行う流量計を増設し、使用量の管理を強化する ③洗浄方法の見直しにて水使用量を削減する（過剰量を削減）
化学物質 使用量削減 2022年度比 93%以下	化学物質使用量 原単位 2022年度比：93%以下	①使用量の適正管理実施 ②分析機器更新により溶剤使用を削減する ③触媒使用量の削減、リサイクルの実施
グリーン購入推進	グリーン購入実施率 95%以上	①グリーン購入対象品リストに従って、事務用品・文具を購入する ②購入部署はリストにある備品購入へ誘導する
環境配慮設計	環境配慮設計 の要素品の比率 97%以上維持	①RSPO使用製品、精製条件に基準を設定した製品開発 ②化学物質を使用せず石けんをベースにした商品開発 ③石けん化粧品品の自社製品については、RSPO認証（パーム油）、FSC森林認証、 共に100%の製品設定に切替えていく
地域とのコミュニケーション	地域との コミュニケーション 2,000人/年以上	①工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会（サステナブルスクール）開催する ②地域清掃活動の継続実施（本社工場～入江橋周辺） ③コロナ禍対応として、Webリモートや出前による教育会を行う

7 環境経営目標の実績

① 二酸化炭素排出量原単位：kg-CO₂/t

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標（%）（数値以下）	基準年	83.00	79.00	75.00
年度実績（%）：2022 年度比	—	92.92	80.62	—
評価	基準	△あと一步	△あと一步	—
CO ₂ 排出量（t）	12,706	12,193	11,645	—
非化石証書調達量（t）	—	1,832	2,421	—

（目標以下○）

② 総産業廃棄物量原単位：t/t

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標（%）（数値以下）	基準年	97.00	95.00	93.00
年度実績（%）：2022 年度比	—	119.10	105.72	—
評価	基準	×未達成	×未達成	—

（目標以下○）

③ 食品廃棄物発生量原単位：t/t

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標（%）（数値以下）	基準年	99.00	96.00	93.00
年度実績（%）：2022 年度比	—	78.99	76.67	—
評価	基準	○達成	○達成	—

（目標以下○）

④ 食品リサイクル率 (%)

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標 (%) (数値以上)	基準年	97.00	97.00	97.00
年度実績 (%) : 2022 年度比	97.55	94.40	98.11	—
評価	基準	×未達成	○達成	—

(目標以上○)

(2024 年度内訳)

①発生量 (t)	1,493.5	⑤減量量 (t)	0.0
②発生抑制量 (t)	0.0	⑥再生利用等以外の量 (t)	10.8
③再生利用量 (t)	947.9	⑦廃棄物としての処分量 (t)	0.0
④熱回収量 (t)	545.5	⑧再生利用等の実施率 (%)	98.2

※化石原料由来の脱プラスチックに向けて、「生分解性プラスチック用途」として、廃油 10.8t の再資源化推進。食品リサイクル法では現段階で計上できない扱いとなった。よって⑥再生利用等以外の量が多くなり、再生利用等の実施率が低くなっている。

⑤ 総排水量原単位 : m³/t

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標 (%) (数値以下)	基準年	99.00	95.00	91.00
年度実績 (%) : 2022 年度比	—	100.46	106.92	—
評価	基準	×未達成	×未達成	—

(目標以下○)

⑥ 化学物質使用量原単位 : kg /t

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標 (%) (数値以下)	基準年	97.00	93.00	89.00
年度実績 (%) : 2022 年度比	—	94.15	90.02	—
評価	基準	○達成	○達成	—

(目標以下○)

⑦ グリーン購入実施率 (%) (作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率)

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	95.00	95.00	95.00
年度実績 (%)	98.47	97.96	98.04	—
評価	基準	○達成	○達成	—

(目標以上○)

⑧ 環境配慮設計 (石けん・化粧品事業) : 品/品・年

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	97.0	97.0	97.0
年度実績 (%)	97.0	100.0	100.0	—
評価	基準	○達成	○達成	—

(目標以上○)

⑨ 地域とのコミュニケーション (石けん学習会など) : 人/年

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
年度目標 (人/年) (数値以上)	—	2,000	2,000	2,000
年度実績 (人/年)	1,438	1,278	1,283	—
評価	基準	×未達成	×未達成	—

(目標以上○)

〈評価方法〉

○ : 達成 目標値達成
 △ : あと一歩 目標値に達していないが 80% の変化がある
 × : 未達 目標値未達成



※対前年比で生産量 10%増があり、2024 年度各評価に影響が出ている

環境経営計画		取組結果とその評価・＜次年度の取組＞
二酸化炭素 排出量原単位削減 ＜東電：排出係数 0.456kg-CO ₂ /kWh＞ 2022年度比 79%以下 結果 2022年度比 80.62% (評価：△あと一步)	電気使用量 原単位削減 2022年度比：97.0%以下	目標（2022年度比：97%）⇒結果（60.53%）（年度評価：○達成） 60.53%・・・非化石証書差し引き後の年度比 103.00%・・・単純前年度比 ＜次年度取組＞ ①非化石証書（カーボンオフセット）を50%以上取得（2024年度45.5%取得、 5,420千kWh、CO ₂ で2,371t減、2023年度3,980千kWh、CO ₂ で1,528t減） ②空調設備の更新、照明のLED化、省エネ機器設置による効率向上 ③設備保全の強化、設備起因のロス削減で生産性向上 ④製造条件の過剰設定を見直しエネルギー原単位を減 ⑤不適合品の発生を削減し生産性を向上
	都市ガス使用量 原単位削減 2022年度比：97.0%以下	目標（2022年度比：97.0%）⇒結果（95.87%）（年度評価：○達成） バイプロボイラー稼働でガス量約248千m ³ 、CO ₂ 削減557 t-CO ₂ の効果 ＜次年度取組＞ ①脱臭機の条件改善による省エネ運転を確立 ②製造条件見直しにより、過剰な蒸気使用量を削減する ③熱交換設備を導入するなどエネルギー再利用を増やす ④設備保全の強化、設備起因のロス削減で生産性向上 ⑤不適合発生を削減し、再製造等で発生するエネルギー使用を削減する
産業廃棄物排出量 削減 目標：2022年度比 95% 結果 105.7% (評価：×未達成)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2022年度比：95.0%以下	目標（2022年度比：95.0%）⇒結果（99.96%）（年度評価：×未達成） ＜次年度取組＞ ①資材・製品在庫の持ち方を見直し、不良在庫の廃棄量を削減する ②リサイクル対象物を再設定し資源化強化 ③監視カメラ映像にてごみの分別状況点検、指摘・改善の実施 ④産業廃棄物排出量未達成の要因は、排水処理設備からの汚泥排出量の増加 である。この要因となった排水温度を監視、改善策（冷却設備）を設置する
	廃白土量削減 2022年度比：98%以下 25.19kg/t以下	目標（2022年度比：98%以下）⇒結果（103.4%）（年度評価：×未達成） 25.19kg/t ⇒ 26.05kg/t ＜次年度取組＞ ①製造頻度の高い品目を主に色調管理し白土量削減を行う ②廃白土含油率を下げる圧搾処理設備を増強する
食品廃棄物 発生抑制 目標：2022年度比 96%以下 結果：81.37% (評価：○達成) リサイクル率97%以上 結果98.26% (評価：○達成)	食品廃棄物 発生量削減 2022年度比：96%以下 1,700t以下	目標（2022年度比：96%以下）⇒結果（81.37%）（年度評価：○達成） 1,700t ⇒ 1,441t（内バイプロボイラー燃料391.59t） ＜次年度取組＞ ①油水分離回収設備の運用強化し廃油の資源化を増やす ②資材・製品在庫で賞味期限などで発生する不良在庫の廃棄量を削減する ③製造条件を環境配慮設計のもと改定を進める ④バイプロボイラーの安定稼働
	食品リサイクル率 97.0%以上	目標（97.0%以上）⇒結果（98.26%）（年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①不適合品発生を抑制と再資源化率の監視活動を継続実施する
総排水量削減 目標：2022年度比 95%以下 結果95.41% (評価：△あと一步)	水使用量 原単位削減 2022年度比：92.5%以下 (3.89 m ³ /t 以下)	目標（2022年度比：92.5%以下）⇒結果（109.12%）（年度評価：×未達成） 3.89以下 ⇒ 4.24 ＜次年度取組＞ ①排水が定期的に発生する現場を再点検し、要不要を確認し削減方法を設定する ②洗浄制御に過剰が無い確認・見直し、水使用量を削減する ③排水冷却設備を増設し、工程での水冷却投入量を下げる ④水の計測装置を設置し負荷変動を把握、そこから削減方案を立て実施する
化学物質 使用量削減 目標：2022年度比 93%以下 結果90.02% (評価：○達成)	化学物質使用量 原単位 2022年度比：93%以下 (0.0381 t/t 以下)	目標（2022年度比：93%以下）⇒結果（90.02%）（年度評価：○達成） 0.0381 ⇒ 0.0369 ＜次年度取組＞ ①化学物質使用機器の更新など機能UPを行い使用量の縮小を図る ②分析方法や分析機器の変更などで溶液使用を減する ③分析項目の要不要の見直しを行う
グリーン 購入推進 目標：95%以上 結果97.96% (評価：○達成)	グリーン購入 実施率推進 95%以上	目標（95%以上）⇒結果（98.04%）（年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①定期的に購入する備品はグリーン購入対象品を選択する ②グリーン購入対象品を選択できた商品を全社横展開する
環境配慮設計 目標：97%以上 結果100% (評価：○達成)	環境配慮設計 (97%以上) 石けん化粧品事業	目標（97%以上）⇒結果（100%）（年度評価：○達成） ＜次年度取組＞ ①生分解性プラスチックの採用を行い設計に組み込む ②石けん化粧品の自社新製品はRSP0100%、FSC100%対応を継続する
地域との コミュニケーション 目標2000人/年 結果1282人/年 (評価：×未達成)	地域との コミュニケーション (2000人/年)	目標（2,000人/年）⇒結果（1,283人/年）（年度評価：×未達成） ・地域学校や修学旅行生を迎える対応をしたが目標人数には届かなかった ＜次年度取組＞ ①サステナブルスクールを横浜市とも連携し開催する ②修学旅行生の受入れ継続 ③町内会や消費者団体の積極的な受入れ実施

＜評価について＞○：達成
 △：あと一步
 ×：未達成

目標値達成
 取り組み開始されており、目標値に達していないが概ね（達成率 80% 程度）削減或いは抑制効果が確認されている
 目標値未達成（80% 未満）

1) 主要な取り組みの総括評価

電気エネルギーは非化石証書45%取得がありCO₂削減目標は達成できている。しかし生産量の増もあり熱エネルギー共に総量は増加する結果となっている。次年度は電力・蒸気(熱)共に休日や非稼働時間帯のエネルギー消費を抑える取り組みを進める。

また工程ごとのエネルギー量を測定し原単位管理からムダ・ロス発生有無を管理し省エネを図る。

廃棄物は、産業廃棄物が目標未達成であり、廃棄物の発生元の実態を改めて調査し、分別できるものを見つけ再資源化を進める。

排水量は目標達成付近となったが、水利用側のムダ・ロスの調査を継続し使用量をおさえていく。

環境配慮設計製品の設定は、自社品においては100%対応できているが、OEMなどの受託品でお客様指定の製法や原料構成があるため、集計方法を区分して管理していく。

地域コミュニケーションの参加者数は、修学旅行生の増はあるが、目標人数が高いので、過去実績から年1,000人以上に修正する。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 適用法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、 ガスエンジン、 悪臭	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（NOxの許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例 （横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回 Nox測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水 規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例 （横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保（屋上緑化推進）	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物 （タンク）	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物 （薬品庫）	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、 スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
P C B廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回/3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5kw以上）	○
省エネ法 （エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO ₂ 換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法 （地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、 「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」 （1%以上／年平均のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」 （（財）日本容器包装リサイクル協会）	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則、 石棉障害予防規則などの遵守・・・問題なし	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律 （プラ新法）	全社	製品設計指針に即した製品設計 プラスチック使用製品の廃棄物排出抑制と、自主回収・再資源化の率先	○

2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。
私たちを取り巻くすべての課題に対して、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを取りながら、CSR活動やSDGsへの取り組みを通して持続可能な未来の実現を目指していきます。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

一つひとつの活動が今の世の中の動きとリンクしており良い活動となっている。

体系的に太陽油脂が、どのような方向に進んでいくかパーパス経営も含め、まだ具体的にないとは思っていないので今後協議を進めて行く。

これは、従業員と考え方を合わせて行かなくてはならないが、スローガンの『太陽の恵み 人にやさしく 地球にやさしく』は分かりやすい。ダブルスタンダードの『人』と『地球』を時流に合わせると、『人』は人権に繋がっていく。『地球』は環境でありEA21で発展しておりできている。

人権の対応は、意識しているが体系的に決める必要がある。人権（人にやさしく）の範囲は広いが、当社の歴史を紐解くと、石けん教室を40年やっている。これは子供を守る意識からできており、コスメバンク・RSPOも子供に関わる場所も行っている。

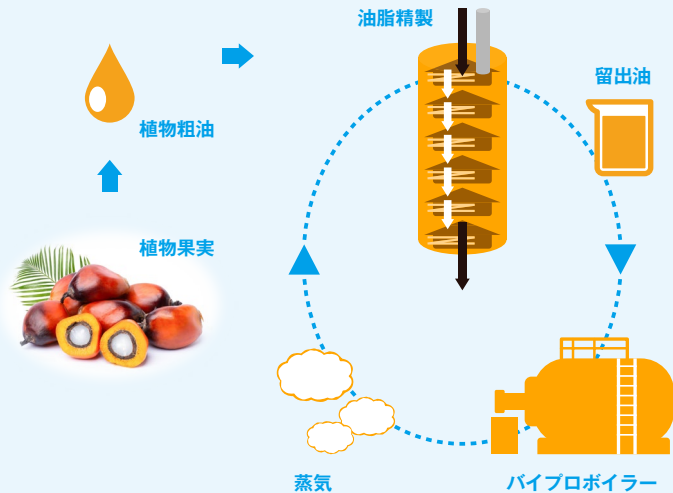
これからは、横浜から日本、アジア、世界的な活動へと抜げていきたいと考えている。コスメバンクでもフィリピンの貧困子供への支援を積極的に行っており、当社も人権のターゲットを子供から親子へと抜け、それにより『人にやさしく』を具体的なものにしていきたい。

●エネルギー管理指定工場

省エネ法が1979年(昭和54年)に制定時から太陽油脂は、省エネルギー設備の導入・改造を行ってきました。現在はエコアクション21と連携し環境負荷を減する活動を継続しています。

●バイプロボイラー稼働

植物油脂の蒸留精製時に発生する留出油(廃油)を利用した熱源設備「バイプロボイラー」を2023年4月に稼働させました。2024年度の熱エネルギーのCO₂排出量削減は「558t-CO₂」となりました。設備回線など設備調整があり計画値以下となっています。(計画では年間約935tのCO₂削減)



●再生可能エネルギー

太陽油脂コーポレートサイトに、再生可能エネルギーを主要な取組テーマとして設置、「2030年までに使用電力の100%を再生可能エネルギーに切り替えます」を明記しています。2022年1月より非化石証書を購入し、カーボンニュートラルに向けた活動を継続しています。2024年度は、総電力量11,922千kWhに対し、約45.5%の5,420千kWhの非化石証書を取得しました。(2,371 t-CO₂カーボンオフセット)

(参考：2023年度3,980千kWh、CO₂：1,528t減)

化石証書取得実績

- ①2024年 4月～ 6月：1,200,000kWh
- ②2024年 7月～ 9月：1,360,000kWh
- ③2024年 10月～ 12月：1,420,000kWh
- ④2025年 1月～ 3月：1,440,000kWh

●BCMプロジェクト設置

2024年度にBCMプロジェクトを設置し、甚大な自然災害に対しての備えや、必要な行動基準を設定しました。

太陽油脂は、地域経済やサプライチェーンの中で次の役割を担います。

食用加工油脂は食品素材で、非常時の食料保持のため、石けん・化粧品は衛生用品で、非常時の生活環境維持のために、当社はサプライチェーンの一企業として供給継続の責任があり、全社活動を体系化してBCMを展開致します。

会社として3つの責務を最重要課題としました。

- ① 従業員、家族、訪問者の**安否確認**
- ② 顧客への**供給責任**
- ③ 地域の復旧活動や近隣への支援など**社会貢献**

中小企業庁、中小機構の事業継続力強化計画のガイドラインを元にして活動を展開

- ・ 甚大な自然災害発生時の従業員の初動対応から避難、安否確認までの基本動作の設定
- ・ 甚大な自然災害を想定し、事業活動に与える影響の整理と自社対策を設定
- ・ 被災時に必要な知識、通報・初期消火・応急救護についての教育を実施
- ・ 近隣企業のマツダ(株)R&Dセンター横浜殿と三ツ輪産業(株) 神奈川支店横浜営業所殿との3社で連携できる協力体制を構築

●地域貢献、社宅防災訓練について

老朽により解体予定の社宅を、神奈川消防署、入江町内会に防災訓練の場として提供。

神奈川消防署の各出張所から部隊が参加し、放水、救助訓練を実施、入江町内会の方々には、煙体験、簡易トイレ使用方法、油火災の消火方法を訓練してもらい、防災意識を高める活動としました。

また、従業員対象の防災訓練も本社宅にて、神奈川消防署の指導を受け同様に実施、訓練参加者250人、90%の従業員が参加し、防災意識を向上させました。

その活動自体を横浜市消防局から認められ、横浜消防局長賞を受賞しています。



●横浜市「Y-SDGs」スプリーム (Supreme) の認証継続 (2022年7月～)

2023年度も「Y-SDGs」認証の更なる向上として、以下の取り組みを行い認証継続するための活動を行っています。

- ・健康経営…健康相談室設置 (フィジカル・メンタルサポート強化)
- ・社会貢献 (経済支援) …コスメバンクプロジェクト連携
- ・労務環境…女性比率UP、従業員の活躍に対する各種表彰制度の充実



●「一個の石けんから地球環境を考える」石けん教室開催

2024年度は、2023年に比べ更に新型コロナウイルス感染症の影響もなくなり、YES (ヨコハマエコスクール) 経由以外での依頼も増えた1年となりました。

例年通りYES (ヨコハマエコスクール) 経由以外では、※横浜市観光協会経由のSDGs研修旅行や学童施設・横浜市こども青少年局などからの依頼が入りました。工場への来場や、多くは対面での出前教室開催が増えた一年でした。

(42の団体に、48回講座を行うことが出来ました)

※1… YES (ヨコハマ・エコ・スクール)

市民団体・事業者・大学・行政等が施す温暖化対策やエコライフスタイルなど環境に関連する講座やイベント等の「学びの場」を支援し、「YES」という統一ブランドを活用して、「Zero Carbon Yokohama」を全市的ムーブメントに広げていく市民参加型プロジェクトです。

○内容

- ① 受講される方には、工場受入れ・出前教室・WEB教室の希望を聞いての啓発活動となりました。
- ② 実験（乳化の実験、振る石けん作り）、石けんの性質（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）、低学年のお子様には手でこねる石けん作りを体験していただきました。
- ③ SDGsに貢献する企業活動の話や、石けんの原料としても多く使用されるパーム油の適正な使用に関するRSPOへの取り組みもお伝えすることで、エシカルな消費活動をお勧めしました。
- ④ 横浜市のYES登録も五年目を迎え、「人類は地獄の門を開けてしまった」、「地球温暖化から沸騰化の時代に入った」と言われるほど気候変動対応が叫ばれる中、CO₂削減の取り組みが問われている中で、家庭で出来る具体的取り組みの紹介を行った
- ⑤ ※横浜観光協会の「横浜SDGs探求学習ガイド」（写真参照）閲覧し、横浜観光の修学旅行に太陽油脂の講座を希望する中学校が本年も多数ありました。修学旅行生は団体で、大型バスで来社される為、近隣のマツダ株式会社様にご協力を頂き、駐車場、会場をお借りして開催しました。

※公益財団法人横浜観光協会（YCVB）

横浜市及び神奈川県を中心とする産業・技術等の情報資源や歴史的・文化的資源を活用し、国内外からの観光客の誘致・コンベンションの誘致および開催支援等を行うことにより、横浜市及びその周辺地域における観光・コンベンションの振興を図ることを目的に設立されました。

横浜市観光協会はこちらから⇒<https://business.yokohamajapan.com/education/sdgs/>

⑥ こども青年局

こども青年局「放課後キッズクラブ」は、小学校施設を活用して実施する横浜市の事業です。

全ての子どもたちを対象に無償で「遊びの場」を提供すること。留守家庭児童を対象に「生活の場」を提供することを目的に実施しています。

放課後クラブに参加する小学生たちに向けた、こども達の学びの場や社会体験授業の提供について賛同し、参画しております。



○対象（参加団体）

- 学校・団体（小学校18校、中学校7校、高校2校、大学1校、学童施設14施設 合計42）
参加人数 合計 1,283名

○出前石けん学習会の様子



●「サステナブルスクール」の設置

横浜の子供達のSDGs学習、職業観や勤労観、地域貢献意識を育むことに横浜100年企業として「ともに創る未来」をスローガンに、皆様との接点として“サステナブルスクール”の活動をしてきました。後半で行うワークショップ「オリジナル石けんづくり」では、一気に皆さんの声が解放され、響き渡り、楽しそうにしている姿が印象的でした。講座の最後の質問コーナーでは活発な意見交換も出来、後日お礼のお手紙や寄せ書きもいただきました。一個の石けんから地球環境を考える「石けん教室」につぎましては、石けんのみならず事業を通じてSDGsやRSPO、エシカル消費のススメ、CO₂削減といった内容もお話をしているので、ESD（持続可能な開発教育）の活動ともいえます。

サステナブルスクールを構成するコンテンツを更に豊富にして皆さんをお待ちしています。

2024年度のおもな活動

2024年度4-3月	CSR・サステナビリティ委員会の運営（1回/月）
2024年度4-3月	YES他、出前講座の実施と複数講座の開設
2024年度4-3月	「アトリエおからさん」と連携プロジェクト継続 ^{※1}
2024年度4月	コスメバンクプロジェクト2024春夏 協賛とギフトセット梱包支援
2024年度11月	横浜GPN寄付講座参加。関東学院大学にてSDGs・石けんとRSPOについて講義
2024年度11月	こども「エコ活」大作戦2024協賛
2024年度11月	はじめよう！横浜でエシカル消費キャンペーン協賛
2024年度11月	「SDGs未来都市・環境絵日記展2024」参画、太陽油脂賞登録・表彰 ※写真①
2024年度12月	コスメバンクプロジェクト2024秋冬 協賛とギフトセット梱包支援 ^{※2} ※写真②
2024年度12月	マツダサンプラザプロジェクト協賛
2025年度1月	第4回Y-SDGs認定事業者ミーティング参画
2025年度1月	横浜市戸塚区SDGsパネル展に参加
2025年度1月	第1回かながわ脱炭素大賞（普及・促進部門）受賞 ^{※3} ※写真③

※1… アトリエおからさんとは
NPO法人フラットハート（三ツ橋健理事長）が運営する障害のある人の就労の場ヨコハマSDGsデザインセンターを介し、おからさんとの連携が始まった。

※2… コスメバンクプロジェクトとは
一般社団法人バンクフォースマイルズ（事務局所在地：東京都港区、代表理事：山田メコミ）は、“女性と地球にスマイルを”増やすべく、行き先が決まっていない化粧品の余剰品を経済的困難下にある女性に無償でお届けするものです。
<https://cosmebank.jp/>

※3… かながわ脱炭素大賞とは
2050年脱炭素社会の実現に向けて、県民や事業者など、様々な主体と連携して「オール神奈川」で取り組んでいくため、脱炭素に関する優れた取組を行った個人や事業者、学校等の功績を称えるもので2024年は第一回目です。



2024年度のおもな活動、参考写真



※写真①



※写真②



※写真③

●第1回かながわ脱炭素大賞

「一個の石けんから地球環境を考える『石けん教室』」と題して、横浜市の小、中学生を対象に年間48回 1,000人以上に石けん教室を実施してきました。石けん教室では、石けんの話からSDGs、脱炭素へとつなげ、家庭の省エネ行動など脱炭素全般について普及啓発しております。その活動が、神奈川県からも評価され、第一回かながわ脱炭素大賞を受賞しております。



●環境配慮設計商品の開発

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境を配慮した肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。石けん・化粧品研究開発グループでは、環境にやさしい製品を毎年開発しております。

本年度は環境に配慮しより資源の削減に努めてまいりました。ハンドクリームの柚子の香りポンプボトルタイプは、2層構造のデラムボトルを採用することでクリーム容器残量低減に努めました。また同じくチューブタイプはバイオマスプラスチックを使用したチューブに変更しました。

本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新して取得を続けております。

【環境配慮設計の基準】

- ・当社製品は石油由来の合成化学物質は使用せず、自然由来成分にこだわった石けんや化粧品を製造しています。
- ・商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造しています。
- ・プラスチックにおいてはその使用量を減らし、使用する場合はリサイクル可能・バイオマス由来・生分解性のある素材にしています。

●環境配慮商品

環境配慮 2024年度新製品



バックスナチュロン
ハンドクリーム柚子210g



バックスナチュロン
ハンドクリーム 3種70g

●持続可能なパーム油の調達 (RSPO)

RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) の普及 (Roundtable on Sustainable Palm Oil)

太陽油脂はパーム油を使用する企業として、パーム産業に関わる環境面や社会面の問題に目を向け、2011年3月にRSPOに正会員として加盟しました。

2015年2月からはRSPO認証の製品の販売を開始しており、トレードマークを順次表示しています。



このようなトレードマークを表示しています



※詳細はコーポレートサイト (以下URL) にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sustainability/>

RSPO情報は以下URLを参照ください (英文サイト)

<https://www.rspo.org>

太陽油脂RSPO情報は、以下URLを参照ください (英文サイト)

<https://www.rspo.org/members/779/Taiyo-Yushi-Corp>



●肥育期間短縮による肉牛のメタンガス排出量削減

大学や企業、農場と共同で研究を行い、「脂肪酸カルシウム」を製造・販売しています。この「脂肪酸カルシウム」は、肉牛のエサに混ぜるなどして与えることで、家畜が早く健やかに育ち、結果として反芻によるメタンガスの排出量が減少します。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

・飼料事業について

<https://taiyo-yushi.co.jp/service/feeds/>

・SDGsへの取り組み（肥育期間短縮による肉牛のメタンガス排出量削減）

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>



●太陽油脂のSDGs重点テーマ設置

自社の取り組みをSDGsの17のゴールと169のターゲットと照らし合わせ、事業との関連性で重要度を評価しました。そして自社の重点テーマにつながるSDGs（9つのゴール）に取り組んでいます。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>

●ヨコハマ・エコ・スクール（YES）との連携

YESは、横浜市が開催している環境に関連する講座やイベント等のプロジェクトです。



●ヨコハマSDGsデザインセンターとの連携

横浜市が抱える環境・経済社会的課題解決に向けて活動を行います。



※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/society/>

●地域への貢献

・清掃活動

地域貢献活動として、太陽油脂から国道までの道路周辺を毎週清掃活動しています。



・町内会への協力

毎年夏に行われる町内会イベント向けで例年通り協賛品を寄付。（近隣の3箇所の町内会）

・横浜FCとECOパートナー契約

プロサッカーチームの横浜FCとECOパートナー契約を締結し、製品の提供による横浜FCの環境配慮活動サポートや、イベント時の石けんづくりワークショップを通じてスポーツの支援を行っています。



・コスメバンク プロジェクト賛同

化粧品を経済的困難下の女性へ無償でお届けする「コスメバンク プロジェクト」賛同
一般社団法人バンクフォースマイルズ（事務局所在地：東京都港区、代表理事：山田メユミ）の、“女性と地球にスマイルを”増やすべく、行き先が決まっていない化粧品の余剰品を経済的困難下にある女性に無償でお届けする「コスメバンク プロジェクト」に賛同しています。

・地域スポーツ支援

神奈川県家庭婦人バレーボール大会に対し2019年に協賛と約7,500名に対する製品寄贈を行っています。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/society/>

◎会社沿革

- 1919年（大正8年） 東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年） 南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年） 石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年） 太陽油脂株式会社として創立
- 1948年（昭和23年） 石けんシャンプーの商標を「ボックス」に決定
- 1950年（昭和25年） 我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年） ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年） 鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年） ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年） コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年） CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年） フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始
関係会社「太陽サービス株式会社」創立
- 1989年（平成元年） 「ボックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年） HACCP認証取得（加工油脂）
- 2004年（平成16年） ISO9001：2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年） 「ボックスオリ」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年） 「ボックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年） エコアクション21 認証・登録
- 2011年（平成23年） RSPO加入
- 2013年（平成25年） FSSC22000（食用加工油脂）取得
SC認証（RSPO）取得
基礎化粧品シリーズ「素肌レシピ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年） ISO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年） 創立70周年を迎える
- 2018年（平成30年） ISO9001：2008（石けん・化粧品）取得
- 2019年（令和元年） 創業100周年を迎える
- 2020年（令和2年） 横浜市SDGs認証制度（第1回Y-SDGs）上位（Superior）取得
石けん・化粧品事業12月自社製造よりRSPO（MB/BC）100%化達成
- 2021年（令和3年） SDGsの開発目標8項目を重点テーマ化
非化石証書購入開始（2022年1月～）
- 2022年（令和4年） 横浜市SDGs認証制度（第7回Y-SDGs）最上位（Supreme）へランクアップ
創立75周年
- 2024年（令和6年） 横浜健康経営認証2024クラスAA取得

